

教会報ほんじょ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
https://www.catholic-honjo-church.org

INDEX

- 「聖年六か月目」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他

「聖年六か月目」

主任司祭 パウロ 豊島 治

六月のご挨拶を申し上げます

新しい教皇様が私たちのもとに遣わされました。バチカンニュースの動画の音声を流しながら眠りについたところ、教皇選出を告げる高らかな宣言で目覚めました。午前一時過ぎのことです。

「レオ」を名乗られると聞き、まず八年間同じ現場で働いたレオ一世の霊名を持つ東京教区の故・川原謙三神父様を、次に学生時代からお世話になっていいるニュージールランド出身のレオ神父様、そして前の池長大阪大司教様を思い出しました。最後に、私の好きな野球チームのイメージまで浮かんできました。教皇様が意図されたレオ十三世が思い浮かばなかったのは、お恥ずかしい限りです。



選出後の週末、紋章が発表されました。神学生時代に「紋章学」という学問分野があることを知りました

が、この度の紋章の日本語解説（中央協議会ウェブサイトにて閲覧可能）からもその奥深さがうかがえます。教皇レオ十四世の紋章では、右下の白い地に本が置かれ、その上に矢で貫かれた燃える心臓が描かれています。これは、アウグスティヌスの『告白』にある「あなたは私たちの心を、愛の矢で貫かれました」という言葉を象徴していると説明されています。

司祭になる前、父からアウグスティヌスの『告白』を贈られました。昔の活字は小さく、紙質も読みやすいとは言えず、内容も平易ではなかったため、せっかちな性格も災いし、残念ながら多くは記憶に残っていません。ただ、父が三力所に葉を挟んでいたのを覚えています。六月は父の日があり、父が生きていれば百歳を迎える年でもあります。その葉の箇所を辿ってみましょう。

「あなたは私たちを（あなた）ご自身に向けてお造りになりました。それゆえ、私たちの心はあなたのうちに憩うまで安らぎを得ません。」

（『告白』第一巻一章）

本の冒頭の言葉です。人間の本質的な希求、神への憧憬が力強く表現されていると感じます。真の平安は神のうちにこそ見出せるのだと察せられます。

「古くしかも新しい美よ、わたしがあなたを愛したのはあまりにおよかった。」
（同十巻二十七章）

アウグスティヌスが長年の精神的な遍歴の末、ついに神の愛に気づいた瞬間の喜びと悔恨が吐露されています。「古くしかも新しい美」という対照的な表現は、永遠の神の普遍性と絶えざる新鮮な魅力を捉え、魂が真の美に出会えた感動を伝えています。

「時とは何か。もし誰も私に尋ねなければ、私は知っている。しかし、尋ねる人に説明しようとするれば、私は知らない。」
（同十一巻十四章）

時間についての深い考察です。神の永遠性という観点から見ると、人間が経験する「時間」という概念は容易には説明できません。日常生活で誰もがこのことを認めつつも、その本質に対するアウグスティヌスの思索の深さを感じさせられます。

六月は「み心の月」とされています。イエスのみ心を自ら深く理解しようとすることは容易ではありません。良き導きを得ながら、その理解を深めていければと願います。